

麻疹(PA法)

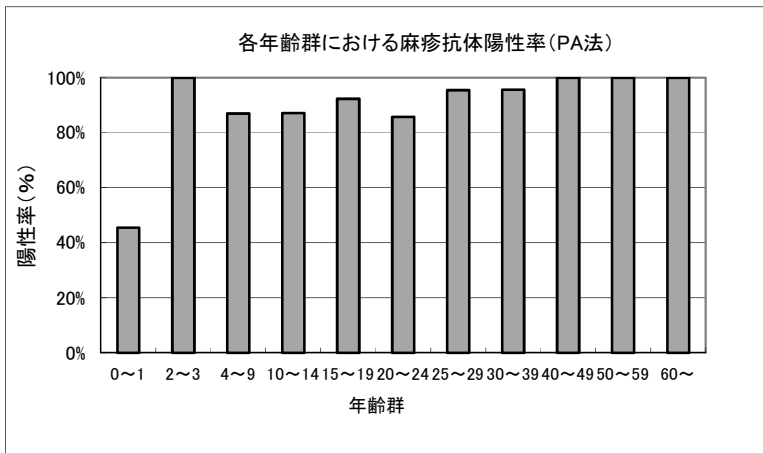
1) 検体数

	年齢群(歳)											合計
	0~1	2~3	4~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~39	40~49	50~59	60~	
検体数	22	19	23	31	13	7	22	23	18	12	6	196

麻疹は合計196検体(血清)についてゼラチン粒子凝集法(particle agglutination:PA)にて抗体価を測定した。各年齢群の指定検体数は22であったが、2~3歳、15~19歳、20~24歳、40~49歳、50~59歳、60歳以上の年齢群で指定数に達しなかった。

2) 麻疹PA法による抗体陽性率(陽性:PA値16倍以上)

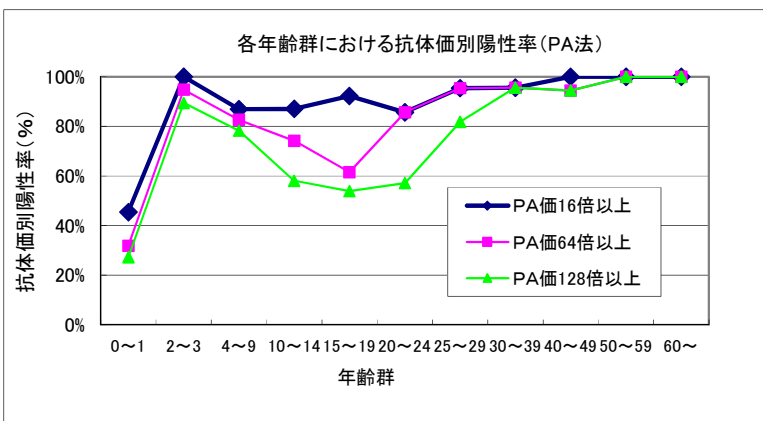
	年齢群(歳)										
	0~1	2~3	4~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~39	40~49	50~59	60~
陽性率(%)	45.5%	100.0%	87.0%	87.1%	92.3%	85.7%	95.5%	95.7%	100.0%	100.0%	100.0%



- ・PA法による麻疹抗体陽性率は2~3歳、40~49歳、50~59歳、60歳以上の年齢群で100%だった。
- ・0~1歳、4~9歳、10~14歳、15~19歳、20~24歳の年齢群で陽性率95%を下回った。

3) 麻疹PA法による抗体価別陽性率(%)

	年齢群(歳)										
	0~1	2~3	4~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~39	40~49	50~59	60~
PA値16倍以上	45.5%	100.0%	87.0%	87.1%	92.3%	85.7%	95.5%	95.7%	100.0%	100.0%	100.0%
PA値64倍以上	31.8%	94.7%	82.6%	74.2%	61.5%	85.7%	95.5%	95.7%	94.4%	100.0%	100.0%
PA値128倍以上	27.3%	89.5%	78.3%	58.1%	53.8%	57.1%	81.8%	95.7%	94.4%	100.0%	100.0%



- ・修飾麻疹を含めた発症予防可能レベルを考えるとPA値128倍以上が望まれる。
- ・PA値128倍以上の陽性率は0~1歳、2~3歳、4~9歳、10~14歳、15~19歳、20~24歳、25~29歳の年齢群で90%を下回った。
- ・過去、2007年に10代、20代を中心とする麻疹の流行が起こっていることから、PA値128倍を下回っている割合が高い10~20歳代の抗体陽性率等の動向について注視する必要がある。確実な免疫を得るためには、2回の定期接種を受けることが重要である。麻疹の罹患歴や予防接種歴が明らかでない場合には予防接種を受けること、また、接種歴が1回のみの場合や流行国に渡航する場合等には、2回目の予防接種を検討する必要がある。

## 新型コロナウイルス感染症

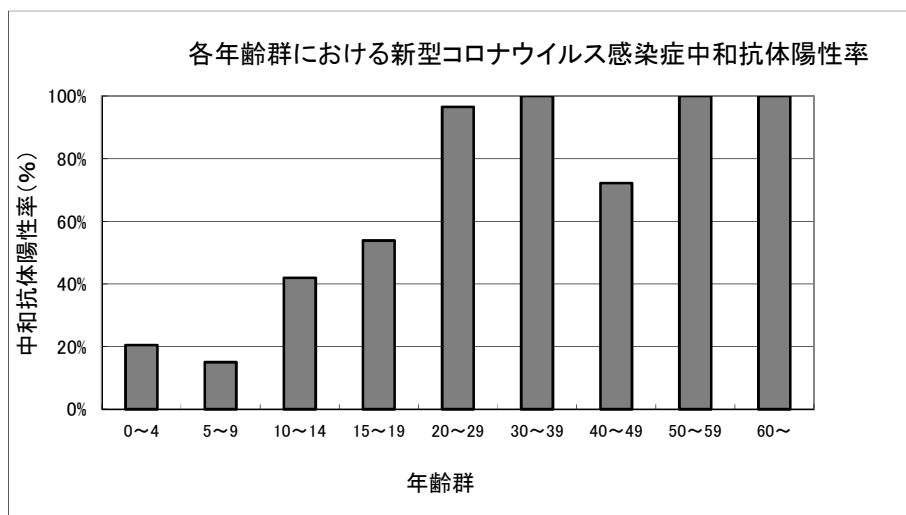
### 1) 検体について

検体数	年齢群									合計
	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	
	44	20	31	13	29	23	18	12	6	196

新型コロナウイルス感染症は合計196検体(血清)について、中和抗体価を測定した。各年齢群の指定検体数は22であったが、5～9歳、15～19歳、40～49歳、50～59歳、60歳以上の年齢群で指定数に達しなかった。

### 2) 各年齢群における新型コロナウイルス感染症中和抗体陽性率(陽性:中和抗体価5倍以上)

陽性率(%)	年齢群(歳)								
	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～
	20.5%	15.0%	41.9%	53.8%	96.6%	100.0%	72.2%	100.0%	100.0%



・新型コロナウイルス感染症の中和抗体陽性率は、20～39歳および50歳以上の年齢群で90%を上回り、10～19歳および40～49歳で40%～80%、0～9歳で30%未満であった。